

大阪・千里山 (日本リスクマネージャネットワーク)

(社)日本リスクマネージャネットワーク(JRMN)
代表理事 宮崎隆介

1

1. 教育活動の趣旨

- * 大阪大学の「環境リスク管理のための人材養成」プログラム修了生(リスクマネージャ)有志が「社会の要請に応じてリスクマネジメントの普及に取り組み、リスク事象に関する調査研究を行うとともにリスクマネージャとしての資質を磨き、社会の安全、安心の向上に資することを目的」(定款第3条)として設立した組織。(現在会員数 42名)
- * 2009年度の知の市場の講座(東京開催)に当会の会員が参加し、増田会長の話に触発され、当会でも大阪で知の市場の活動を「リスクマネジメントの普及」という会の目的に沿うものとしてアウトリーチ活動の位置づけで取り組むこととした。

2. NITEに続く大阪での2つ目の開講機関

*まず自分たちの学んだこと(環境リスクマネジメント)をバックボーンとしながらも、自分たちの仕事の経験を踏まえて話すことができるものをベースにして講座を構成することとした。

*研究者でなく、様々な実務者の集まりである会員が一人ずつ、可能な限り自分の仕事に依りながら1講義を担当することにして、〈市民のための環境問題入門〉として歴史を学ぶ視点をもって講を組み立てた。

*JRMN担当の「環境基礎論」開催と同時に、東京において既開催の2講座「化学物質総合評価1」/「防疫薬総合管理」(関西在住講師が多数参加)も含めてNITEに続く2つ目の開講機関として大阪で3講座を開催することになった。

JRMN担当講座「環境基礎論」シラバス

科目構成	No.	講義名	講義概要(150字)
地球と環境	1	環境問題の歴史	環境問題を考える糸口として、時代の変遷を振り返りながら環境問題の歴史を俯瞰し、講義全体を概観する。
	2	宇宙船地球号(1)	環境問題を考える上で基礎になる地球のしくみのうち、大気圏、水圏のしくみを解説する。
	3	宇宙船地球号(2)	環境問題を考える上で基礎になる地球のしくみのうち、陸圏のしくみについて解説する。また、「生物多様性」とは何か、その重要性と現状を森と木の役割や林野庁の進める「木づかい運動」、「美しい森づくり国民運動」の紹介を通じて解説する。
公害と環境	4	水質汚濁問題	水質汚染の歴史は産業革命にまで遡る。産業の発展と共に川や海が汚れ、人の生活に悪影響を与えてきた。水質汚濁対策の進展で現在では相当改善されてきたがまだ完全ではなく、新しい問題も起きている。水質汚濁問題を日本の状況を中心に、上水道への影響や下水道整備の話を変えて解説する。合成洗剤の簡単な実験を通して合成洗剤問題の再認識も図る。
	5	土壌汚染問題	土壌汚染問題をタイトタイプライター(カドミウム汚染米)の問題やラプチャナル事件など土壌汚染の歴史から説き起こす。最近の東京築地市場の移転問題やブラウンフィールド問題まで土壌汚染の歴史を概観しつつ、土壌汚染対策技術の解説も行う。
	6	大気汚染問題	戦後の公害問題としての大気汚染の歴史を振り返るため、4大公害裁判の一つ「四日市ぜんそく」から道路環境裁判までの概略と企業・行政の取り組みを述べ、改善されつつある大気汚染の状況を示すとともに、今後の課題として現在、環境基準が未達成である「光化学オキシダント」についての現状とその要因の一つである「越境汚染への取り組み」について紹介する。また、昨年9月に微小粒子状物質(PM2.5)が環境基準として設定されたので、「微小粒子状物質(PM2.5)とはどのようなものかを紹介し、最新の大気汚染への知見を紹介する。
	7	廃棄物処理問題	廃棄物とは何か、産業廃棄物と一般廃棄物、不法廃棄、焼却場、廃棄物処理場、ダイオキシン問題、住民運動、海外との関係、など廃棄物とその処理問題全般について、歴史と現状、行政の対応を踏まえながら解説する。
地球温暖化	8	地球温暖化(1)	地球温暖化のもたらす脅威は世界的な共通認識となり、その対策をめぐって国際的な取り組みや交渉が続けられている。この共通認識をもたらしたIPCC(国連気候変動に関する政府間パネル)の報告(主として第4次報告書-AR4)について概説する。
	9	地球温暖化(2)	現在、課題となっている環境問題は、1960年代以降の高度成長期の公害問題を起点として、省エネルギー技術の発展を促した。この技術はその後、居住環境の快適性を担保し代替として、熱や有害物質などを排出し周辺空間を汚染している。身近な建築環境に焦点を当て環境側面からエネルギーの利活用について概説する。
化学物質と食	10	化学物質のリスク管理	今や現代社会の中で化学物質の恩恵は計り知れないが、一方でさまざまな問題も生じている。化審法、PRTR制度、REACHなど法規制をはじめとした社会的な管理の仕組みを解説し、会員の仕事を通じて化学物質の環境リスク管理について講義する。
	11	食の安全・安心	食にまつわるリスクとは、生活に最も身近な環境リスクであり、生命に直結する問題でもある。農作物の栽培や畜産の飼育、或いは加工品の製造・開発の段階に始まり、その後、輸送、防疫、保管、購入、更には調理及び摂取の過程に至るまで、極めて広範囲かつ多面的に発生するリスクについて概説し、対処の仕方についても紹介する。
社会の動き	12	最新の環境技術・環境ビジネスの紹介	テレビや新聞でも話題になり、市民生活にも影響を与える環境関連の技術・ビジネスについて紹介する。地球温暖化対策としての観点から太陽エネルギー、風力などの再生可能エネルギー技術、CO2削減技術、各種省エネ、環境機器など日本が強いといわれているもの紹介と排出権取引やカーボンオフセットビジネスについて解説する。
	13	環境法の動き	各講義で出ている個別法の話をもとめる観点から、主要な環境法の歴史と概要を紹介する。また、日本の法律の歴史的变化と最新の体系、主な国際法規や海外法規の動向についても紹介する。
	14	企業の社会的責任(CSR)	市民の視点で企業との付き合いを考えるというところから企業の社会的責任(CSR)について解説する。その歴史的背景に絡めながら、CS・環境会計・ISO認証取得、CSR報告書など企業の社会的責任(CSR)の現状について解説する。
まとめ	15	持続可能な社会(循環型社会/低炭素社会)を目指して	講義全体のまとめとして、持続可能な社会を実現するための「循環型社会」、「低炭素社会」について日本及び世界の動きを解説し、一緒に考える。

3. 受講者数変遷

化学物質 総合評価 ¹	応募者	受講者	平均出席率	修了者数	修了率
2010年	14	14	79%	9	64%
2011年	7	7	82%	4	57%
防疫薬総合管理	応募者	受講者	平均出席率	修了者数	修了率
2010年	16	15	88%	13	67%
2011年	12	12	84%	8	67%
2012年	17	17	46%	4	24%
2013年	25	23	66%	14	61%
2014年	20	20	58%	—	—
環境基礎論	応募者	受講者	平均出席率	修了者数	修了率
2010年	11	11	84%	9	82%
2011年	8	8	66%	4	50%
2012年	15	15	49%	6	40%
2013年	16	15	69%	8	53%
2014年	7	7	77%	—	—

4. 受講者応募手法

- 1) チラシ、ポスターの配布／**すべての講座**
 大阪市周辺自治体の学習センター
 大学掲示板
 開催場所鉄道沿線駅(阪急電鉄)
- 2) 各種団体、組織メールマガジン
 環境省近畿地方事務所 (**すべての講座**)
 大阪府環境情報プラザ (**すべての講座**)
 JRMN会員所属団体 (**環境基礎論**)
- 3) 講座内容関連企業、団体へのPR依頼および
 受講者派遣を個別依頼 (**防疫薬総合管理**)

5. 課題

1) 講座中止の原因(化学物質総合評価1)

受講者の減少／講義内容が古くなってしまった

2) 講座の拡充(JRMN)

- * 「環境基礎論」にはリスクマネジメント関連の内容も含まれているが、JRMNの目標に沿うよう「リスクマネジメント」を中心に据えた講座の開講を検討。
- * 過去の環境基礎論受講者の応募を期待。
- * 福島原発事故以降社会のリスク問題への関心拡大を踏まえて、応募者増の期待。

3) 受講者層の拡大

- * 環境関連組織・団体への働きかけ(環境基礎論)
- * 自治体保健所職員への働きかけ(防疫薬総合管理)

4) 事務局機能の充実

終

